

# 製本のススメ

Vol. 141

毎年の事ですが 卒業入学と 年度の入替わりは慌ただしく 引越し業者さんも大忙しの様子です。今年の桜(ツバキ)は 例年通りとか。待ち遠しい春の風景です。

今回は**再び紙と湿気**の話し

製紙工程で急速に乾燥した紙は その歪を解消しようと伸縮率が大きくなります。その後加湿と乾燥を繰り返す(シーズニング)と、伸縮も安定し少しの湿度変化では変形しなくなります。カラー印刷を単色機で刷っていた頃は 印刷中の伸縮を防ぐために 多くの印刷工場でシーズニングが行われていましたが 現在は4色以上の印刷機で印刷することが増え また短納期と時代の流れによって変化しています。

そうはいってもシーズニングされていない紙は、外気の湿度変化に敏感で 紙の伸びは避けられません。このことから**表紙(特に背文字が有る)**の多面付けは お勧めできません。8面付きなどは紙伸びが起きて 表紙を付ける際にズレた位置にくるみあがってしまうからです。薄い用紙では さらに顕著に現れますので4面でさえもズレてしまいます。

さて 毎回のようにススメに登場する紙目ですが、シーズニングを施されていない紙は、紙目にそって歪みます。これにより本文の波打ちが起こり、見栄えや開きが悪く壊れやすい本が出来上がります。特に上製本では致命的です。横長の冊子や見返しの付く冊子も要注意です。それは何故か？ 答えはカンタン「湿気のある糊を多く使用する為」です。糊の湿気が冊子全体にまわり たわんだ本が出来上がります。時折『前回の本は、そうになっていない』と見本を見せられますが それは時間が経ち冊子の中で伸縮が終了し落ち着いたからであり おそらく見本の冊子も出来たばかりの頃はたわんでいたはずです。

楽器作りに使う木材は何年も寝かしてから使うそうですが 本も実は1年くらい経つと 落ち着いた本になるのです。



## Teabreak

芝生の緑が色濃くなってきました。こうなるとゴルフシーズン突入ですね。さてゴルフボールにはディンプルという凹凸があります。打たれたボールは回転しながら飛んでいきますが、その際に空気抵抗を減らし ボール周りの空気を揚力に変え 飛距離を伸ばす働きがあるそう。だてに凹んでいるわけではないのですね。

弊社 HP は [www.isekiseihon.com](http://www.isekiseihon.com)

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本